

巨大地震警報が発令されても

伊方原発 3 号炉の運転は継続するのが四電の方針！

2019 年 12 月 4 日付の愛媛新聞に、「M8以上の地震で『南海トラフ地震臨時情報』発表後も、伊方原発3号機の運転は継続する、また、中央構造線断層帯による地震にも対応する安全対策を講じており、これもまた運転は継続する」とした四国電力の方針が報道されました。

この方針に対して、私たちは、原発震災の恐怖と「ここまで四国電力は、私たちの命を軽んじるのか」という怒りを感じています。

私たちは、東日本大震災や西日本豪雨などを経験し「空振り」になってもいいから事前に逃げることを学びました。四国電力も、地震予知があれば即刻原発を止めるべきです。それが「空振り」であっても、放射能という命を脅かす物質を扱っている以上は、当然のことです。



福島原発震災で避難され仮設住宅に移られた人たちは、8年が過ぎ9年が来ようとしている今でも、自宅に戻ることは叶いません。福島第一原発の事故処理も出来ていません。四国電力は、「影響下にある全ての住民に対して、いかなる事態が起きようとも、誰も被曝させないこと」を企業責任として第一義にするべきなのです。

原子力非常事態宣言は今も解除されてはいません。

《 伊方から原発をなくす会 八幡浜市 304 番地の 8 新町商店街内 》

定期検査中に度重なる人的事故が続発

愛媛県は、12日、定期検査中の伊方原発3号機で、燃料集合体取り出しに向けて上部の構造物を吊り上げ作業中、本来は燃料集合体に残すはずだった制御棒1本を引き上げる異常が起きたと発表。7日には、四国電力と愛媛県が、2017年10月に行った定期検査で、燃料の取り出し後にする放射性物質の流入を防ぐための空調装置の点検作業を誤って取り出し前にするミスがあったと発表。これらは、「作業員に対して作業教育をしっかりとしているのだろうか?」「監督責任者は何をしていたのだろうか?」と首を傾げるようなミスで、四国電力の安全に対する意識の低さが露見した事故です。

核分裂を抑制する制御棒は7時間も吊り上げ放しにしても気付かない、放射性物質の流出を防ぐ空調装置は無検査で原発を稼働させる、そして「環境への影響はなかった」として平然としている四国電力に対して、私たちは、言葉に出来ない恐怖を感じています。環境に影響があったら、私たちは被曝するのですから一大事です。問題は、放射能を撒き散らす可能性があることを仕出かしたことです。このような最低限の安全意識さえも持たず、被曝の危機感さえもなおざりにしている四国電力が、原発を動かすということは絶対に許せません。

定検さえも疎かにしている四国電力の伊方原発稼働で、

再び強要される恐怖を怒りにかえて、一緒に声をあげましょう!

伊方原発動かすな! 原発いらない! いますぐ廃炉!

伊方原発動かすな! 現地集会

2020年3月20日(金・休日)

13:30 伊方レッドウィングパーク集合

《道の駅きらら館までデモ行進》

14:30 集会 道の駅きらら館前歩道